

いよいよ FIA の時代が到来か！
—大活躍 in 日本分析化学会第 61 年会—

株式会社 小川商会 樋口慶郎

平成 23 年 3 月、悲願であった FIA の公定法化の大きな第一歩ともいえるべき、新たな JIS K0170:2011 “流れ分析法による水質試験方法” が制定されたことはすでにご承知の通りです。さらに、現在は JIS K0102 (工場排水試験方法) への規格化や公定法化の検討へと発展してきています。時間は少々かかりましたが、まさに FIA の現場への普及が一段と加速するであろう大きなブレイクスルーとなると筆者は信じてやまみません。

そんな FIA の勢いがまさに今年度の日本分析化学会第 61 年会 (金沢大学、平成 24 年 9 月 19 日～21 日) においても特筆するに値するほど大いに発揮されたことを本稿において紹介させていただきます。

まず、八尾俊男先生 (元大阪府立大学) が 2012 年度学会功績賞を受賞されました。業績は、「フローインジェクション電気化学バイオセンサーと高機能化に関する研究と学会への貢献」であり、学術分野はもとより先生の開発された技術は実用的にも現場で大いに利用されています。八尾先生のお人柄と研究業績は JAFIA 会員ならずともご承知のとおりです。また、鉄鋼分析の分野でご活躍が続けられ、FIA 装置メーカーの一員として JAFIA の活動にもご協力いただいた吉川裕康博士 (JFE テクノリサーチ) は、「鉄鋼業を支える微量元素の高感度・迅速分析法の開発および普及」の業績により技術功績賞を受賞されました。さらに、2012 年度先端分析技術賞 CERI 評価技術賞を手嶋紀雄先生 (愛知工業大学) が、「フロー化学分析によるヒト代謝物質評

価手法の開発」の業績により受賞されました。JAFIA の若手のエース手嶋先生の精力的なご研究による成果は、現場での評価手法に FIA が応用可能なことが評価された証明で、FIA の有意性を強くアピールした業績だと思います。

一方、研究発表の分野でも FIA の活躍は顕著でした。特に「若手講演ポスター賞」を FIA 関係者が 5 件も受賞しています。受賞者は以下の通りです (紙面の都合上、発表者のみ記載、発表番号順)。「ポリピロール膜を利用した微生物検出の選択性」中土井祐 (大阪府大)、「マイクロイオン抽出デバイスによる唾液中微量陰イオンの分析」前田史織 (熊本大)、「バイカル湖水溶存硫化ジメチルおよびその前駆物質の化学発光法によるフィールド分析」長畑孝典 (熊本大)、「気節・非相分離／振幅変調多重化フロー分析法によるアンモニウムイオンの定量」戌亥孝次 (徳島大)、「イソプレンのフローインジェクション蛍光光度分析」杉山恭一郎 (愛知工大)。各章を受賞されたみなさま、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

特別にこれまで FIA 研究者・関係者が、肩身の狭い思いで過ごしてきたわけではありませんが、FIA を取り巻く環境の変化、特に今回の年会での FIA 関係者の活躍は、まさにこれからの FIA を、学術的及び実用的観点からさらに盛り上げて、普及・発展させていこうとする我々の大きな推進力となることは間違いないと思います。ますます、研究に、事業に、邁進していきましょう。